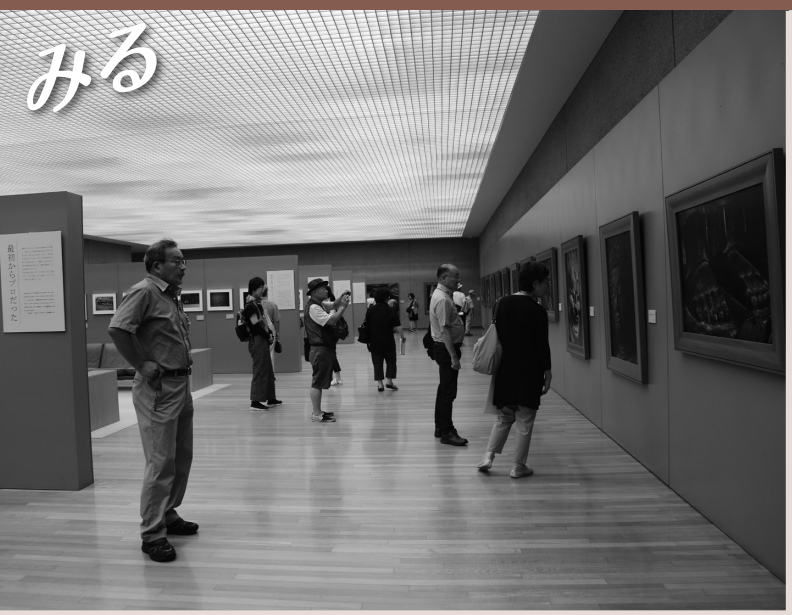
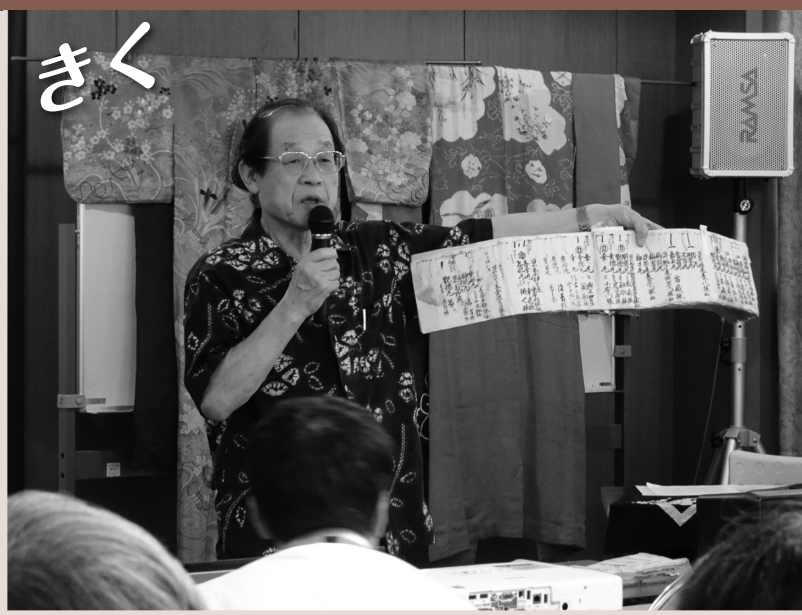
山形県生涯学習センターだより

2019.11 Vol. 17

生涯学習やまがた





CONTENTS

❷ 特集
地方創生と生涯学習・社会教育
～地域づくりの担い手育成方策を考える～（廣瀬隆人氏）

❺ 事業報告
人が集まる企画とチラシづくり・地域と学校との連携協働が必要な訳

❻ たからびと⑦
安食勇さん（戸沢村）

❼ やまがたマナビィnetの仲間たち！
藤沢周平・司馬遼太郎文学愛好会（山形市）

❽ Information
森見登美彦 & 深緑野分トークショー・洗心庵 庭園と抹茶を楽しむ会・遊学館 貸館再開のお知らせ

学びの窓 / 山形学
庄内現地学習

毎年テーマを変え山形の魅力を探る山形学。今年は「みやびとあそびの山形」と題し、山形の芸術文化を、フォーラムと全５回の連続講座で学びました。

最上川舟運によりもたらされた優れた芸術文化はもとより、現在の山形における映画や演劇、絵画、写真、舞踊、工芸など、実物を見て触れて、講師や実践者の話を聞き、実際に味わい、参加者同士で触れあい、五感をつかって学んでいきます。大型バス２台で巡る現地学習も好評。普段できないバックヤード見学など、山形学ならではの企画や講師陣も魅力です。庄内現地学習では土門拳記念館や相馬樓を訪れました。

特集

地方創生を実現するため、生涯学習・社会教育で取り組むべきは「地域づくりの担い手育成」。県内の実践も踏まえ、いかに取り組むべきか、前号に続き廣瀬隆人氏より寄稿していただきました。

「地方創生と生涯学習・社会教育 ～地域づくりの担い手育成方策を考える～」

一般社団法人とちぎ市民協働研究会代表理事　廣瀬（ひろせ）隆人（たかひと）氏

地域づくりの担い手育成は、社会教育の主要な命題である。団体のリーダー育成を意味するだけでなく、地域づくりに主体的に参画する覚悟と意思を持つ人々をも含んでいる。そこで主として山形県内の担い手育成講座のプログラムを紹介しながら、担い手育成講座の企画立案の考え方や具体的な方策を導き出していくこととする。

地域づくりの担い手育成をめぐる考え方

これまでの地域づくりの担い手育成講座で比較的多く見られるのが、人格・能力ともに優れたリーダーの実践から学ぶ方法である。こうした学習の感想は、しばしば「忍耐と我慢」「あきらめない」「使命感と実践力」「情熱的行動力と決断力」「細やかな配慮」といった言葉が踊る。また、「よき導き人であること」「不屈の精神、強い信念」「旺盛な行動力」あるいは、「面倒くさいことほど丁寧に」や「人に命令せず自らが率先して」など、実践から導き出された行動の指針が示される場合もある。リーダーから高い精神性や行動原理、細部にわたる配慮といった抽象化された概念を学習することになる。

しかし、抽象的な言葉や精神訓は、担い手になろうとする人々をエンパワメント※1するのだろうか。抽象概念は広範な同意を得ることはできるが、評論に陥りやすい。「優れたリーダーがいないと地域づくりはできない」という理解になりはしないか。優れたリーダーは、受講者の手の届かないところに存在していて、「とても自分にはできない」という絶望だけが残ることになりはしないか。そこから地域づくりの主体となるという覚悟や可能性を持つことができるのだろうか。抽象概念は、多様な理解を許容し、説得力がある反面、具体性に乏しい。

地方創生の先進地域として全国的に注目を集める川西町吉島地区、NPO法人きらりよしじまネットワークの高橋由和事務局長は、地元の高齢者の差し入れる食べ物は全て受取り、次回会うときに必ずそのお礼を言う、団体が表彰される時には毎回事業に参加して人知れず後始末を最後までするような人に表彰状を受け取ってもらうという。「細やかな配慮」とはこうした具体の積み重ねの所産である。高橋氏は、「細やかな配慮」という概念を先に習得して行動しているわけではない。優れたリーダーの暗黙知※2は、長年の地域活動のふりかえりの成果として獲得されたものである。

そこには高齢者を大切にする生き方、感謝の心を必ず言葉で表現する行動習慣が存在する。一人一人の住民と丁寧につきあうという生き方なのだ。だから、具体的な行動習慣（振る舞い方）の中から受講者自身が一般化の方途を見つけていくことが必要なのである。

丁寧に最後まで人の話を聴く、できるかぎり直接会う、絶え間なく人に感謝の心を伝える、約束と時間を守る、相手に不満はあっても排除しない、仲間の悪口を言わない、相手の良いところを語る、最後の後始末までする、お世話になった人にお礼を言う、資源を提供してくれた人にお礼状を書く、食べ物をいただいたらごちそうさまでしたと言う、些細なことでも事前に連絡する、人にものごとを頼むときの頼み方や電話のかけ方など一つの事象では

廣瀬 隆人 氏
プロフィール

専門は、地域づくり、地域学、学校と地域の連携、地域福祉、人権教育など。北海道生まれ。北海道の公立高等学校教員、北海道教育庁生涯学習部文化課社会教育主事、国立教育会館社会教育研修所専門職員、宇都宮大学教授、北海道教育大学大学院教授を歴任。宇都宮市在住。

長年、山形県内の社会教育関係職員研修などの講師を務める。山形県生涯学習センター「山形学」企画委員会委員、栃木県人権施策推進審議会会長。

※1　力をつけること・力をひきだすこと　　※2　言葉で表現しにくい経験や勘に基づく知識

なく、連続した行動の中に暗黙知が内在している。部品として切り取っても意味をなさないのである。受講者には「これから自分はどう生きるのか」という問い直しが必要なのである。

このように一人一人を尊重するという民主的な人格が地域づくりの先進事例をつくっている。だから人格の形成を目指す「社会教育」という営みが必要なのである。ファシリテーション※3や合意形成のスキルだけを身につければ良いと言うものではない。地域づくりはそれほど単純なものではないのだ。情熱や使命感だけでは空回りする可能性もある。リーダーから学ぶということは具体的な実践を通じて自分の生き方を修正、変更するという覚悟がなければならない。担い手育成は、何かを教え込むことではなく、自分の中にある力に気づき、その力を引き出すことにある。リーダーの中に自分との共通点や共有点を見つけて、そこから自分の力や可能性に気づくことが必要である。

地域の個別性

地域づくりは「先進事例」から学ぶ方法も選択される。他地域に学ぶことには意味があるとは考えられるものの、地域は、同一県内であっても歴史、文化、産業構造、自然条件、伝統、気風、生活様式、方言、気候などの諸条件によって大きく異なる。これほどの「違い」がある地域から何を学ぶというのだろうか。こうした違いを乗り越える学習が工夫されているのだろうか。さらに何年もかけて失敗と成功を積み重ねてきた先進事例のノウハウを、どうして一夜にして安直に手に入れることができるのだろうか。現実には、単純に事例を模倣しようとしても、模倣すらできないのである。

地域づくりの実践は地域の歴史や気風が大きく影響している。実践事例を理解しようとするときにこうした歴史をはじめとする地域文化を構成する諸要素を丁寧に理解することからはじめなくてはならない。人々の暮らし方の蓄積としての歴史は現代をつくる土台となっている。今の暮らしを問い、人々が何をしてきたのかを学ぶと、いつの時代も自分たちの地域をより住みやすく快適に暮らしていこうとする営みが連綿と続いていたことに気がつく。

担い手育成のプログラム

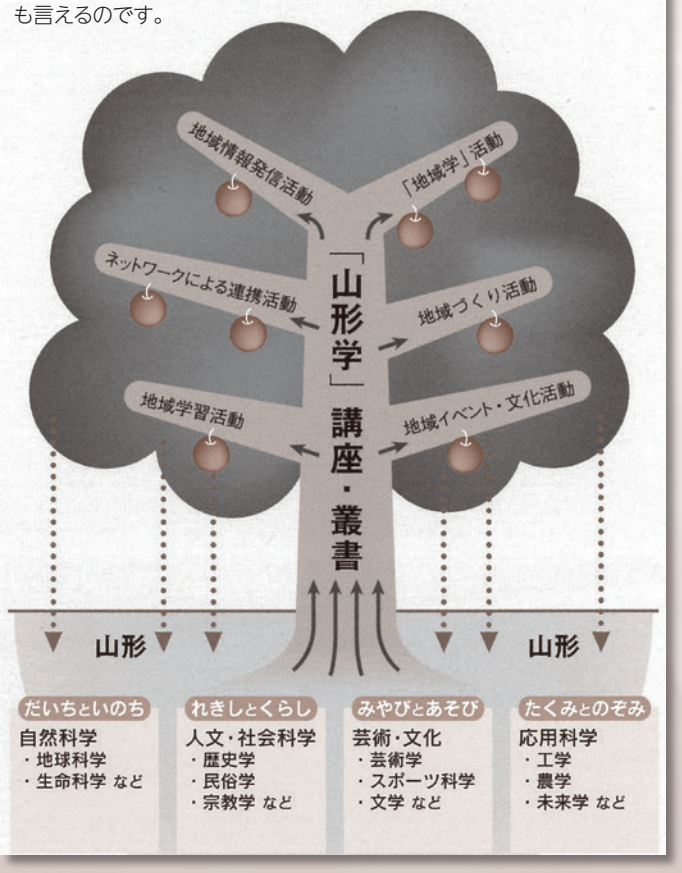
では具体的にどのように地域づくりの担い手育成プログラムを作成すれば良いのだろうか。県内各地の事例を検討すると概ね次のようなモデルが見えてきた。

(1)地域志向性の形成

(地域に目を向けるようになること)

地域づくりの担い手育成のスタートは地域・地元を理解するための学習にある。地名の由来や歴史、民俗、自然といった基礎的な知識が不可欠である。そこから地域の価値を再認識し、地域特性を科学的客観的に把握することにある。地域特性と歴史を理解することは地域づくりの必需品であると言って良い。山形県青年の家の体験講座や最上総合支庁のジモト大学などもこうした地域学習がベースになっている。山形県生涯学習センターが30年以上も継続して行ってきた山形学講座や地域学交流集会の実践はこうした地域を学ぶ際の視点を提供し続けてきたのである。

「山形学」の理念を木に例えると、根の一本一本が山形県に関する既存の各分野、そこから養分を吸い上げる幹が「山形学」であり、細い枝の先が学習者一人ひとりを表現しています。学習者は創り手とも言えるのです。



※3　人々の活動が容易にできるよう支援し、うまくことが運ぶよう舵取りすること。

(2)つながりづくりと組織化

地域づくりの側面の一つに、人と人が何かの縁を媒介にして、新しい知人や友人になるという意味が込められている。そしてお互いが助け合って暮らしていけるようになることを目指している。つながりをつくるためには、人と人をつなぐための「接着剤」を提供する必要があるのだ。県内でも、講座やセミナーという一堂に会して講義を聴いたり、話し合いをしたり、現地視察や宿泊研修なども実施されている。そこでは体験や語り場での時間を共有し、お互いの「共通点」を確認し合うのである。この「同じだな」という感覚こそが人がつながる要因の一つである。講座やセミナーの修了者が組織化し、その組織が地域づくり事業を実践するのである。山形県男女共同参画センターチェリア塾の修了者で構成されるチェリア塾ネットワークは恒常的な組織ではなく、むしろ緩やかなつながりを維持しており、お互いの資源、専門性に関する情報を共有して、課題やテーマにあわせて関係者が集まり、一時的に組織化し、ミッションを遂行し、終われば解散するというような実行委員会形式ともいうべきプラットフォーム※4モデルも存在している。

(3)トライアルモデル

具体的にプランをつくり、実践することが組み込まれているプログラムである。具体的な実践力を高めることが強く意識されたものである。栃木県のましこ町民大学では、講座でプランを作成し、修了式でそれを首長や教育長を前に発表させている。翌年度から活動がスタートする。

講座の中に実践が組み込まれ、最終回はそのふりかえりとなる場合もある。山形県生涯学習センターで実施する、地域福祉の人材を育む「支え合いの地域づくり担い手養成講座」はよりその性格を明確に打ち出している。

【支え合いの地域づくり担い手養成講座プログラム】

- **第１回　現地研修**　支え合いの居場所を訪ねて現場で学ぶ　（見学体験できる！）
- ↓
- **第２回　講義＆グループワーク**　高齢者の生活実態と生活課題を学ぶ　（生活課題を仲間と共有できる！）
- ↓
- **第３回　講義＆グループワーク**　課題解決のアクションプランを考える　（課題解決策や企画運営方法を学べる！）
- ↓
- **第４回　トライアル**　生活支援活動を実際に企画運営する　（実践力と運営力をつける！）
- ↓
- **第５回　ふりかえり**　トライアルの振り返りと今後に向けて　（成功や失敗を具体的に分析して次につなげる！）

※終了後、ステップアップ講座やフォローアップ講座など学びの場をさらに提供！

(4)現地インタビュー

これはかつて山形県生涯学習センターで実施した生涯学習コーディネーション講座で提案されたものである。講師を招聘して事例を学ぶのではなく、現地に出向き、関係者にインタビューをしてそれらをまとめて他の受講者に報告するという学習方法である。これは何が聴きたいのかを最初から明確にすることが可能となり、主体的な学習を促すものとなる。講義だけでなく、仲間との関係やたたずまいの中に暗黙知を感じることができる。他の参加者に報告するところまでをアクティビティ※5としてとらえる。

(5)ふりかえり

講義、事例研究、グループ討論、実践などを丁寧にふりかえることによる学びが最も重要である。ふりかえりは、学習活動や実践から学んだことを未来に生かすために行うものである。いつも前向きで、未来をどうするのかを具体的に考えることである。後悔は、変えられない過去を変えようとすることであり、ふりかえりは、変えられる未来を変えようとすることである。楽しかった、参考になった、ためになった、興味深く聴けた、という程度の感想では担い手としての主体性は形成されにくい。自分ならこうしてみよう、今後はこのように行動してみよう、次からはこれをやる、というように具体的な行動を提案しなくては変容にはつながらない。時には「このままじゃだめだ」と感じることも必要なのだ。絶望や失望を乗り越えたときに主体である自分の可能性に気づくものである。

担い手育成は、人をつくるという教育活動である。知識や技術、方法を教えれば担い手になるわけではない。地域で必要とされて、自分がやらなくてはという覚悟と地域に必要とされる関係をつくることである。人柄、気持ち、心といった近代的合理性では理解しがたいものをつくりだしていく営みなのである。

※4　協働のための基盤・組織　　※5　学習プログラムを構成する個々の活動、小さな学習活動

事業報告

9月7日　洗心庵
地域づくり人材育成セミナー

人が集まる企画とチラシづくり

行政・市民団体・企業などの垣根を越え、共に地域づくりを考え学びあう本セミナー。今回は、「人が集まる企画とチラシづくり」をテーマに、行政や商工会、図書館、大学、社会福祉協議会、市民団体の職員、集落支援員や民生委員の方々が参加。講師は集客力のある講座企画のノウハウを全国に伝授している特定非営利活動法人男女共同参画おおた理事長の坂田静香さん。

企画で大事なのは**“情報収集”**。ターゲットに近い年齢層や価値観を持つ人たちの意見を聞く。他地区・他施設の講座内容や参加者数を調べ、求められている講座を考える。ターゲットが読むと思われる雑誌内容のリサーチも有効とのこと。

次に大事なのが、**心に響くキャッチコピーや講座名**。「マナー講座」「健康講座」「○○って何?」など言葉足らずで内容が不明瞭な表現は避け「△△のためのお金がたまる家計術」「名人かから教わる□□づくり」など、何が学べ身につくのか想像しやすい言葉を選ぶとよいとのこと。

さらに、チラシを手にとってもらうためには、**レイアウトは上部3分の1が勝負**。各施設の限られたスペースではチラシが重なるので、講座名やキャッチコピーを上部に、その他の情報は優先順位を考えて配置。チラシに入れる文言も「受講生の33%がリピーター」より「3人に1人がリピーター」、「受講料6時間で2,400円」より「受講料1時間なんと400円!」など、**インパクトある言葉選び**をすることで集客につながるとのこと。明日から活かせるノウハウをたくさん学びながら交流しあいました!

もっと詳しく学びたい方は、著書『人が集まる!行列ができる!講座・イベントの作り方』(2007、講談社+α新書)をお読みください!

10月21日　青年の家
パワーアップセミナー②A

地域と学校との連携・協働が必要な訳

生涯学習・社会教育関係職員初任者が学びあう本セミナー。今回は、栃木県立足利工業高等学校定時制教頭、国立教育政策研究所フェローとしてご活躍の井上昌幸さんを講師に、学校だけでなく地域で子どもたちを育てていく基盤が作られた長井市の取り組みも交え、学校と地域が連携・協働して教育に当たる必要性などを学びました。

人生100年時代、教育・仕事・老後という単線型の人生ではなく、複数の仕事を持ったり、ボランティア等により地域や社会の課題解決のために活動するなど、多様な人生の再設計が必要となります。人生をより豊かに生きるには、**生涯にわたる学習と地域コミュニティ活動への関わりが必要不可欠**です。

一方で、変化の激しい時代を生き抜く子どもたちを育てるため、学校の学びも変化しています。**「学校」**は豊かな人生を送ることができるよう**基礎となる力を培う場、「地域」**は実生活・実社会について**体験的・探究的に学習できる場**として、学校と地域との連携・協働が必要なのです。連携・協働により、**地域住民の生涯学習**として知識や経験を生かす場の拡充、学校を核とした**地域活性化、地域の教育力の向上**が期待されるほか、子どもたちの「生きる力」や地域への愛着、社会性が育まれ、学力向上の効果もあるとか。

地域と学校がパートナーとして、共に子どもを育て、これからの地域を創るため、**目的を共有して連携し、双方向性のある協働**が求められています。子どもたちを育てる=家庭・学校の役割という認識がまだ多い中、学校と地域の役割や立場、状況について情報を共有し、理解しあうことが最優先なのかもしれません。

子どもも大人も一緒になって地域全体でより良い社会を築けるよう、お互いに学びあい、育ちあい、高めあっていくという**「社会教育」「生涯学習」の原点**を改めて考える機会となりました。

講義や事例紹介、ワークショップなどで学びあいました!

事業報告はホームページでもご覧いただけます。

7

あなた やまがた たからびと

interview

安食（あじき） 勇（いさみ）さん 角川元気プロジェクト代表（戸沢村）

県内で自ら学び続け、いきいきと活躍している方を「たからびと」として、インタビュー形式でご紹介します。今回は、戸沢村角川地区で地域活性化と地区や世代を超えた交流を目的に「TSUNOKAWA SUMMER PARTY」などの企画運営を行う“角川元気プロジェクト”代表の安食勇さんにお話しを伺います。

―始めたきっかけ、現在の活動は？

「角川元気プロジェクト（以下、元プロ）」は、地区の若手男性有志を中心に平成26年6月に発足しました。きっかけは平成26年3月、戸沢村角川小中学校の廃校で、地域の唯一の灯が消えてしまったような気持ちでした。地域を盛り上げようと仲間に声をかけ、それまで集落ごとだった祭りをまとめた夏祭り、サマーパーティーを廃校で開催することにしました。賛否両論ありましたが、一つにまとまって地域を盛り上げていこうという地域の方々の気持ちも強かったですね。最初はメンバーで5,000円ずつ出し合って準備を始めました。ステージ機材や備品提供、資金集めのチケット売りなど、地域の方々一人ひとりにメンバーそれぞれが情熱をもってお願いに回ったことで、地域の全面協力のもと、素晴らしい祭りができました。それ以来、年々協力者も増え、参加者も今年は地区人口700人のところ600人でした。お盆に開催しているので、祭りにあわせて同級会に廃校を活用してもらったりしています。そのほか、大自然の感動にあふれる角川の魅力を発信しようと、冬の角川雪回廊物語や戸沢旬の市での特産品販売など活動を広げています。

地区住民、帰省客、観光客まで幅広い世代が集う異空間のサマーパーティー、是非一度体験してみてください!

―活動で大事にしていることは？

楽しければ人は集まりますから、まずは楽しむこと！それから得意不得意もあるので役割分担をしたら任せる、そして目標に向かって皆で協力すること。メンバーは20代から40代と幅広い世代でお互いの固定観念は通用しません。意見の相違もありますが、それは目標に対するアプローチがいくつもあるということ。まとめるといっても目標の範囲内に収まればいいわけで、危険がない限りは、意見を尊重しています。それによって別の成果や方向性が見えてくることも多いと感じています。失敗しても別の方法を試せばいいし、失敗は成功のもとっていいますからね（笑）

それから、次世代を託す子ども達を地域で育てようと、子ども達の団体などに声がけをして、中高生の元プロユースも立ち上げています。自分達は子どもの頃から地域の祭りや活動に関わってきていますが、今の子ども達はそういった経験がとても少ない。だから自分達がバックアップしながら、自主的な企画・運営・実践・振り返りの中で経験を積んでもらっています。

―これからの目標は!?

実はもともと地域の若者の出会いや交流を目指していたんです。角川、戸沢村全体にも言えますが20代～40代の7割が独身。本当にこのままいけば地域が消滅してしまう。ですから、婚活イベントにも力を入れて行きたいです！それから、戸沢村では都市部の子ども達が年間400人ほど研修旅行として民泊していますので、一般の観光客の民泊やツアーも含めた事業化も勉強して、地域の皆の生活が少しでも潤ってハッピーになれるよう微力ながら頑張っていきたいです！

活動を通じて、自分自身、視野が広がりました。地域で知らない人がいなくなりましたし、地域の皆がふるさとを真剣に良くしたい気持ちを知ることができました。地域でも困った時に協力し合える雰囲気が出てきているのも嬉しいですね。一人ではできないことも協力してやればできます！悩み事は相談すれば半減します、楽しいことは協力すれば倍増します！何も無いからできないではなく、無いからこそ楽しい人生を創りあげていきましょう！

ステージトラックで挨拶する代表の安食さん。皆が最高に楽しんでいる笑顔、感動は何にも変えられないとのこと

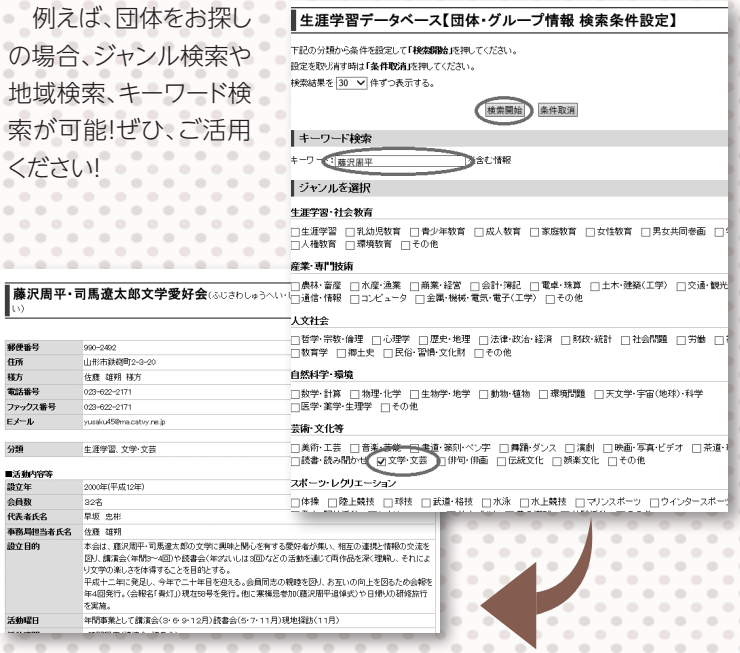
Facebook　Instagram

角川元気プロジェクトHP&MAIL
https://www.facebook.com/tsunokawa.summer.party/
https://www.instagram.com/tsunokawa.genki.project/
gp.tunokawa@gmail.com

やまがたマナビィ net の仲間たち！

講座で学びたい！講師を探すには？同じ活動をする仲間がいないかな？活動する場所を探したい！そんな時は「やまがたマナビィ net」を検索！山形県内の講座・イベント、講師・指導者、団体・グループ、施設情報など生涯学習に関する情報を提供しています。きっと素敵な情報が見つかりますよ！今回は、検索方法のご案内と、素敵な登録団体 **藤沢周平・司馬遼太郎文学愛好会** をご紹介します！

例えば、団体をお探しの場合、ジャンル検索や地域検索、キーワード検索が可能!ぜひ、ご活用ください!



「作品世界と自らの生き方を往還する愉しみ」　藤沢周平・司馬遼太郎文学愛好会

戦後を代表する作家、藤沢周平と司馬遼太郎の文学愛好者が集い平成12年に発足、今年で20年目を迎えます。山形県人には身近で入りやすい藤沢文学と、広い世界観・歴史観を学べる司馬文学をバランスよく取り入れた全国でも非常に珍しい愛好会。会員は現在33名、講演会や読書会、両作家や作品に由来する現地探訪、会報発行などを行い、作品理解を深め、文学の面白さ奥深さを探究しています。読書会では事前に作品を読んで意見交換を、講演会では大学教授などを招いて作品の歴史的背景や作家の世界観などを学びます。

長続きの秘訣は、会員の意見を柔軟に取り入れること。事務局10名を中心に講座運営や事前の会議などは行いますが、意見を取り入れて工夫することで講座のマンネリ化を防ぎ、全員参加の魅力的な講座づくりが可能になります。自主性も大切にした自由な雰囲気の中、作品を丁寧に読み解きながら作品世界と現代社会あるいは自身の生き方に照らし合わせた作品解釈など活発な意見の交流が一番の魅力!講師に触発されて新たな文学の魅力に開眼したり、会員同士でおすすめ作家や作品を教えあったり、休憩時間の交流も愉しみです。

丁寧な講座運営、充実の資料、活発な意見交換で作品世界を深める読書会。会員外の方も大歓迎！ぜひ一度ご参加ください！！

作品に対する様々な意見や男女の考え方、生き方の違いを学べて面白い！

活動内容：　講演会（3・9・12月）※
読書会（5・7・11月）※
現地探訪（10月）
会報『青灯』年4回発行
※原則日曜日13時半～15時半
非会員500円／回

活動場所：　山形市元木公民館

入会条件：　藤沢周平と司馬遼太郎の作品に興味と関心のある方
（随時入会歓迎）

年 会 費：　3,000円

連 絡 先：　023-622-2171（佐藤）

情報発信したい方は

やまがたマナビィnetへの登録、掲載を希望される方は、ホームページ内の「情報の登録・掲載を希望される方へ」を確認のうえ、山形県生涯学習センターへご連絡ください!
やまがたマナビィnet　http://www.gakushubunka.jp/yugakukan/manabinet/

Information Space

山形県生涯学習センター &山形小説家・ライター講座 コラボ企画

森見登美彦&深緑野分トークショー —創作と想像力—

一般向け

2019年本屋大賞第3位『ベルリンは晴れているか』の深緑野分氏と同第４位『熱帯』の森見登美彦氏によるトークショー。 チケット好評発売中！

日　　時　令和2年2月8日（土）15：00〜17：00
会　　場　遊学館ホール
料　　金　一般2,000円　高校生以下1,000円
チケット取扱所　山形県生涯学習センター・文翔館・e+・八文字屋Pool・ローソンチケット・チケットぴあ

山形小説家・ライター講座とは…
月１回、遊学館にて第一線の作家や評論家を講師に参加者の作品講評やトークショーを行う。プロ作家や文学賞受賞者も輩出している。
https://pixiv-bungei.net/yamagatakouza

洗心庵 庭園と抹茶を楽しむ会

一般向け

例年ご好評を頂いているお茶会です。四季折々、日ごと違う表情を見せる洗心庵に是非お越しください。

日　　時　12月7日（土）10時〜15時
会　　場　洗心庵多目的ホール
参 加 料　300円　　問 合 せ　洗心庵（下記）へ

※第６回洗心庵写真コンテストの作品も募集中です。
詳細は財団HPをご確認ください。
Facebook・Instagram やってます!

— 遊学館 — 貸館再開のお知らせ

図書館等施設改修工事によりご不便をおかけしておりましたが、遊学館の貸館を再開しました。なお、消費税率改正に伴い利用料金も変更しております。詳しくはＨＰをご確認ください。

第1研修室（105名）	ホール（324名）
第2研修室（54名）	和室研修室（6･8畳）
第3研修室（新設･48名）	2階ギャラリー（約81㎡）
第4研修室（新設･24名）	学習室（45名）※チェリア施設
第5研修室（新設･14名）	託児室(約10畳)※チェリア施設
第6研修室（14名）	<月曜日･第3日曜日は休館>

※お申し込みは①電話もしくは来館による仮予約②申請書の提出の流れになります。
※毎月初日の開館日に６か月先の利用について抽選会を実施しています。
※県立図書館は令和２年２月上旬オープンにむけて臨時休館中です。

編集後記

藤沢周平・司馬遼太郎文学愛好会の読書会にお邪魔しました。御年９２歳を筆頭に熱心に学ばれる皆様。評論やルポばかり読んでいましたが、久しぶりに小説を手に。作品世界に陶酔できるのは、やはり小説ならでは。読書の効用は多々ありますが、ジャンルによっても活性化する脳領域が違うとか。皆さんも是非いろいろな本を読んでみてください。(A)

編集発行　（公財）山形県生涯学習文化財団　令和元年11月発行

山形県生涯学習センター　〒990-0041 山形市緑町1-2-36［遊学館］
TEL 023-625-6411　FAX 023-625-6415　E-mail yama@gakushubunka.jp
URL http://www.gakushubunka.jp/yugakukan/
▌開館時間　9:00〜21:00［夜間利用が無い場合は19:00まで］
▌休館日　毎週月曜日、毎月第3日曜日、年末年始

洗心庵［山形県生涯学習センター分館］　〒990-0041 山形市緑町1-4-28
TEL 023-664-2800　FAX 023-664-2816
▌開館時間　9:00〜21:00［夜間利用が無い場合は19:00まで］
▌休館日　毎週月曜日、毎月第3日曜日、年末年始

読者プレゼント

「生涯学習やまがた」をご覧いただいている皆さまに、感謝の気持ちを込めて、抽選で３名様へ遊学館ブックス最新刊『どっこい方言は生きている』（1月発売予定1,100円）をプレゼント！左記の山形県生涯学習センター広報紙担当あてに【①お名前・ご住所②入手場所③興味を持たれた記事④内容についてのご感想・ご意見・ご要望】を添えて、はがき・メール・ＦＡＸでご応募ください！締め切りは12月末です。